



テクノロジーの未来は？

(11月のごあいさつ)

平成26年11月1日(土)

朝夕は秋、でも昼間はまだ夏というのが今日この頃です。

eコマース(EC、電子商取引)が大きな影響力を持ちつつある。日本の小売業全体の2011年のEC化率は2.83%(2013.9経産省データ3.1%)と発表され、ほぼ同時期のアメリカ6.7%とイギリス約9%と大きく遅れている。しかし、小売業のeコマース化は今、緒についたばかりの感でもある。

1785年頃、ジェームス・ワット等の発明した蒸気機関により、19世紀の中頃から普及しはじめた鉄道は、距離を克服した。産業革命の生んだ鉄道が、経済と雇用を最も大きく変えるにいたったのは、距離を克服し、人の思考を変え、視野を変え、世界観を変えたからだと言っている。

これと並ぶ変化がeコマースで、eコマースは距離を消したとも表現する。

1946年頃発明されたコンピューターは、約50年を経て、計算、整理、分析、管理業務に大きな発展をもたらし、世界中のコンピューターを結ぶインターネットとして利用されるや、人工知能と呼ばれるまでに変化し、経済取引の手段として活用され始めている。

蒸気機関	1785年	<u>50年</u>	1935年	<u>15年</u>	1950年
	(ジェームス・ワット)		(初期の鉄道建設)		(鉄道建設時代)→
コンピューター	1946年	<u>50年</u>	1996年	<u>15年</u>	2011年
	(エニアック)		(インターネットの実用化)		(eコマースの普及)→

eコマースは売り手はどこにいてもよい。顧客も売り手がどこにいるかを気にかけない。そして、世界最大の書店であるアマゾンなどは、注文がどこから来たかを気にせず、売り、回収する。残る問題は配達の違い化だけである。

5,000年の歴史は新しい段階を迎えたと言えるのだろうか。

5,000年(人間)と5年(テクノロジー)を比較するのは行きすぎか。

マクルーハンのいうメディアはメッセージ、ツールはコンテンツなりなのか。

(テクノロジー)

